

中期目標の達成状況に関する評価結果

(4年目終了時評価)

兵庫教育大学

令和3年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	
評価結果	
《概要》	7
《本文》	8
《判定結果一覧表》	22

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

兵庫教育大学は、平成 25 年度、文部科学省との協議による教員養成分野のミッションの再定義において我が国の「大学院における現職教員の再教育・研修（管理職研修等）の拠点」として位置付けられた。このように本学は教員養成の高度化を最重要課題とする中核的な機関として、学校現場に密接に関連した実践的な教育研究を行うことを基本的な目標とする。また教員の資質能力の向上と学校教育の改善を求める社会的要請に応えるために、次の使命を遂行する。

1. 「現職教員に対する高度な専門性と実践的指導力の育成」
現職教員に対し、教育現場の課題を踏まえた学びの場を提供することにより、専門職として高度な専門性と実践的指導力を育成する。
2. 「実践性に優れた新人教員及び心理専門職の養成」
豊かな教育環境を生かして、実践力と人間性に優れた新人教員を養成する。また、教育大学の特性を生かして、学校教育分野の心理専門職を養成する。
3. 「教育実践学の推進」
学校教育に関する理論と実践を融合した研究（「教育実践学」）を推進し、優れた研究者を養成する。
4. 「教師教育の先導的モデルの構築」
国内外の学校教育の課題やニーズを不断に捉え、新しいカリキュラムや教育方法を主体的に改善・開発することにより、教員養成・研修の先導的モデルとなる。
5. 「教育研究成果の国内外への発信」
教育と研究の成果を地域や広く国内外に発信し、学校の教育活動に生かす。

1. 平成 25 年 11 月に国立大学のミッションの再定義がなされ、本学は、現職教員の再教育・研修の拠点として位置づけられることになった。第 3 期中期目標中期計画においては、この社会的要請を担うために、本学のミッションの第一に、「現職教員に対する高度な専門性と実践的指導力の育成」を掲げた。現職教員の高度な専門性とは、自らの教育実践・活動を客観的に省察し、理論の構築と探究を不断に行うことができる力のことをいう。一方、実践的指導力の育成とは、新しい学校づくりに貢献できる力、組織的に学校現場の課題解決ができる力、同僚・保護者や地域社会との協調的関係を構築することができる力をさす。そのために、大学院においてカリキュラム改革を断行し、令和元年度から教科にかかわるコースを修士課程から専門職学位課程に移行・再編し募集定員を拡充した。併せて、本学で養成すべき教師像を具体的に示した教員養成スタンダードを大学院でも策定した。
2. 学士課程では、学部 4 年間に身につける資質能力を明確にした 50 項目からなる教員養成スタンダードを設けている。教員養成スタンダードの 50 項目は 5 領域からなり、「教師としての基本的素養」、「子ども理解に基づく学級経営・生徒指導」、「教科等の指導」、同僚、保護者や地域との「連携・協働」、職能成長をめざす「学び続ける教師」に、分類される。学部学生は、学年終了時にクラス担当教員ならびに学生同士で相互に振り返りを行い、自身の教師としての資質能力を確認することになる。令和元年度入学生から、卒業要件単位を 128 単位に精選し、卒業と同時に小学校 1 種免許状と中学校 2 種免許状もしくは幼稚園 1 種免許状が取得できるカリキュラムとした。128 単位の中には、現代的な社会課題に対応できる資質能力を高める「教養科目群」、教職に必要な知識を養う「教職キャリア科目群」、

教科等の指導に関わる実践的な内容を学ぶ「教育実践・リフレクション科目群」、自らの専門分野を深める「専門科目群」をバランスよく配置している。修士課程の臨床心理学コースでは、平成30年度より昼間クラスで公認心理師を、夜間クラスで臨床心理士を養成するカリキュラムを整備し、毎年コンスタントに心理専門職を輩出している。

3. 学士課程，修士課程，専門職学位課程及び博士課程の各段階において，学校教員としての教育実践能力の向上につながる教育研究を行い，学校教育に関する理論と実践を融合した研究（「教育実践学」）の成果を教員養成の改善・充実に活かしている。具体的には，理論と実践の融合にかかる研究成果として，これまでに5冊の兵庫教育大学教育実践学叢書を発刊している。第3期中期目標期間中には、『特別支援教育における地域のトップリーダーを考える』（2016），『英語音声教育実践と音声学・音韻論』（2018），『優秀教員の職能開発』（2019）の3冊が刊行され，『教員の職場適応と職能形成—教員縦断調査の分析とフィードバック—』が2020年度刊行予定であり，理論と実践を融合した教育実践学を推進している。我が国で唯一「博士（学校教育学）」を授与する博士課程においては，連合大学院博士課程の構成大学に新たに2大学を加えて6大学に拡充し，「現代的学校教育問題への効果的な対応が可能な教員・臨床心理士の養成研究—性の多様性に関する国際研究と価値観の変容研究—」（H28～H30年度），「東アジアにおける法を活用した規範教育の構築—市民性と人権感覚に支えられた規範意識の醸成—」（H29～R元年度），「子どもの意欲と学力を向上させる教育ビッグデータの利活用ネットワークの形成」（H30～R2年度），「研究者養成を踏まえた教科架橋型教科教育実践学の研究」（H30～R2年度），「近年の自然災害を踏まえた防災，減災教育と学校危機管理の構築」（R1～R3年度）という共同研究テーマで，理論と実践の融合にかかる教育実践学を展開している。
4. 本学は，教員養成・研修の先導的モデルを構築するために，平成30年12月にナショナルセンターとリージョナルセンターの機能をあわせ持つ教員養成・研修高度化センターを設置した。ナショナルプログラムについては，独立行政法人教職員支援機構，日本教職大学院協会，全国都市教育長協議会，全国市町村長会と提携し，教育長ならびに教育委員会幹部職員を対象としたセミナーを開催している。例えば，「新時代の学びを支える教育長講座」では，多様化する教育課題に教育行政はどう立ち向かうかを統一テーマとし，東京，沖縄，神戸の3会場において，教育長等を対象とした研修会を実施した。「教育行政トップリーダーセミナー」では，教育長等を対象に，札幌，東京，神戸，鳥取，沖縄の5会場で，それぞれ4日間の日程で行った。「新時代対応学校管理職マネジメント等研修」は文部科学省委託事業であり，学校管理職用マネジメントプログラム，学校管理職用リーダーシップ研修，教員用マネジメントプログラムの各プログラムからなる。これらのプログラムを実施するため沖縄県名護市，静岡県浜松市等全国の10の教育委員会に講師を派遣した。リージョナルプログラムについては，本学を会場として兵庫県教育委員会と提携して「学校管理職・教育行政職特別研修（ニューリーダー特別研修）」を新任教頭及び指導主事234名（令和元年度）の参加者を2グループに分けて各5日間の日程で実施した。その他，「4～9年目の教員を対象とした研修プログラム」「英語BRUSH-UP研修」「免許法認定公開講座」「免許法認定講習」「大学独自の研修講座」を開講している。
5. 学校教育における理論と実践を架橋し，教員養成の高度化を志向する本学の教育と研究の成果を，地域や国内外に広く発信することにより，教育，学術，文化の発展に寄与すると共に，社会に対する説明責任を果たすため，オープンアクセスに関する指針を平成30年3月に定めた。この指針は，本学で生産された学術研究成果を可能な限り広く無償で公開すること，加えて，学外刊行物に掲載された学術研究成果についても公開することを推奨するものである。学術研究成果の公開は，兵庫教育大学学術情報リポジトリによることとした。これに伴い，学内紀要等の紙媒体から電子媒体への移行をすすめ，令和2年現在，

兵庫教育大学研究紀要，学校教育学研究，教育実践学論集，近代文学雑誌，幼年教育 Web ジャーナル，発達心理臨床研究については，既に，電子ジャーナルへの移行が完了している。平成 28 年度からは，Researchmap を基点として，研究者総覧にダウンロードしたデータを収集し，論文の執筆者に対してリポジトリへのセルフアーカイブを促す仕組みをつくり，本学の教職員による研究成果を可能な限り網羅的に公開するシステムが構築されている。

この他，教育研究成果の地域への還元としては，平成 29 年度より加東市から地域子育て支援拠点事業の委託を受け，子育て支援ルームの名称を「かとう GENKi」とし，地域の親子を支援している。また，附属学校においては，デザイン思考を取り入れた新総合領域「未来デザイン」（附属小学校），「教科の本質的なねらいとのバランスがとれたクロスカリキュラムの研究」（附属中学校）のカリキュラム開発を行い，この研究成果を研究大会を通じて近隣の学校からの参加者に公開した。

[個性の伸長に向けた取組（★）]

- 平成30年度に学部の課程の名称を，初等教育教員養成課程から学校教育教員養成課程に変更し，平成31年度入学生からの卒業要件を，小学校1種免許状をベースに中学校2種免許状もしくは幼稚園1種免許状の取得を課す教育課程に改めた。この措置は，今後，義務教育学校が増えるなかで，本学の卒業生が，小学校と中学校の両方の職場で働くことができる資格要件を充たすことに配慮した教育課程上の一大改革であった。これに伴い，学部学生は，学校教員としての基礎教養を身に付けるべく1年次から4年次まで少人数で継続的に指導を受けられるクラス制を導入した。2年次からは教科の専門性を身に付けるグループ，3年次からは探究型個別指導による卒業研究を導入することによって，4年間を見通した三位一体型の学修指導体制を確立した。カリキュラム上の工夫としては，1年次からのクラス担当教員による初年次教育の充実を図る「クラスセミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」や2年次における幅広い教養と探究の方法を身につける「教養ゼミ」，3年次の教育文化施設をフィールドとして学校教育とのかかわりを再考する「学校課題事例研究Ⅰ」や4年次の学校現場に生起する現代的な教育課題やよりよい実践事例について検討を行う「学校課題事例研究Ⅱ」を新設した。こうしたカリキュラム改革によって，学生は4年間を通じて，系統立ったアクティブ・ラーニングによる授業を受講可能になった。（関連する中期計画1-1-1-1）
- 学修成果の可視化を進めるために，「学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）」を学部，大学院共に定め，学生が身に付ける資質能力について，ディプロマ・ポリシーに対する到達度を多面的に評価するとともに，ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに即して教育課程，教育内容が適切に構成され，効果的な教育方法によって学部・大学院の授業が実施されているかを検証することとした。その方策の第一として，学修の段階や履修の順序性など教育課程をより体系的に明示するため，学部において「授業科目のナンバリングの方針」を策定し，令和元年度入学生から適用の開設科目にナンバリングを実施した。ナンバリングにより，学部の各授業科目と，教員としての資質能力の到達目標を示した本学独自の教員養成スタンダードに基づくディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，並びに教育職員免許法との対応関係が明確になった。方策の第二として，教育支援システムが保有する成績データを活用して，教員が成績分布図を確認できるようにシステムを改修した。そして，方策の第三として，eポートフォリオ「CanPass ノート」が保有する各学生の教員養成スタンダードの各項目に基づく単位修得状況（TSS：Teachers' Standard-based Score）データを活用して，学修成果を可視化する方策を整備した。大学院においては，在学生・修了生の振り返りをもとにコースごとに『教員養成スタンダード（大学院）に基づく学生の力量形成の状況』をまとめた。今後，授業の実施状況と学生の単位修得状況，教員養成スタンダード 50 項目に対する学生の自己評価の関係を分析し，機関レベル，課程レベル，科目レベルでの教育の質保証に生かせるよう体制を構築した。（関連する中期計画1-1-1-3，

1-1-2-3, 1-1-3-3)

- 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科は、博士（学校教育学）の学位を授与する我が国で唯一の博士課程である。平成31年4月からは、研究指導体制をさらに充実させるため、構成大学をこれまでの兵庫教育大学、上越教育大学、岡山大学、鳴門教育大学の4大学から、新たに岐阜大学及び滋賀大学の2大学を加えた6大学に拡充し、入学定員を32人から36人に増員した。令和元年度入試は定員36人に対して志願者数52人（志願倍率1.44倍）、入学者数37人、令和2年度入試は志願者数56人（志願倍率1.56倍）、入学者数39人となっており、定員拡充後も十分な倍率を維持している。本学研究科の目的は、「実践に根ざした学校教育学を教育研究できる人材」と「実践的研究に裏付けられた研究能力を持って指導的役割を果たす専門的職業人」を育成することにある。第3期中期目標期間中の学位授与者数は93人であり、博士学位授与機関としての役割を十分に果たしている。（関連する中期計画1-1-4-1, 2-1-2-1）
- 本学大学院においては、教職大学院として全国初の取組となる現職教員や社会人が勤務地に居ながら学べる新規2コース（教育政策リーダーコース及びグローバル化推進教育リーダーコース）を平成28年度に開設した。特に、教育政策リーダーコースは、全国を5ブロックに分け、それぞれのブロックの中心となる市町で出前講義やフィールドワーク等の実践を行ったり、映像教材をオンデマンドで提供する等ICTを積極的に活用した授業を行ったりすることによって、全国的な教育と研修の展開を可能にしている。令和元年度からは、教職大学院の定員を155人に拡大し、言語系教科マネジメントコース、社会系教科マネジメントコース、理数系教科マネジメントコースを新設した。これらのコースでは、教科指導のスキルに卓越した人材を育成することになる。さらに、現職教員の高度化に資する学び直し・研修を可能にするために、平成30年に教員養成・研修高度化センターを創設し、全国の大学・各種機関、教育委員会、学校等と連携し、Society5.0時代に対応する現職教員のための研修プログラムを開発し実施している。一方、修士課程においては、令和2年度から臨床心理学コースが神戸ハーバーランドキャンパスに移転することに伴い、人間発達教育専攻及び特別支援教育専攻のカリキュラムを見直し、働きながら学ぶ現職教員や社会人のために、学びの場としての神戸ハーバーランドキャンパスを拠点とする夜間クラスの充実を図った。（関連する中期計画3-1-1-1）
- 本学は、高度な専門的知識・能力を身につけるため「学び続ける」現職教員や経済的支援が必要な教員志望学生等に対し、本学独自の奨学金や研究費等を支給する制度を平成30年度から導入している。「兵庫教育大学学生奨学金」は、兵庫教育大学学部学生が本学大学院に進学する場合に支給される奨学金である。支給される奨学金の額は1人当たり282千円で、令和元年度までに29人の学生が給付を受けている。「兵庫教育大学特例制度利用者奨学金」とは、教員採用試験に合格した学生が就職猶予制度を利用し大学院に進学する場合に設けた本学独自の奨学金で平成30年度から導入した。支給される奨学金の額は1人当たり282千円で、令和元年度までに6人の学生が支給を受けている。さらに、「兵庫教育大学学会発表奨励金」を平成29年度から設けた。給付額は1人当たり30千円で令和元年度までに103人の学生が支給を受けている。この他、大学院生に対する研究助成として、「現職教員のための研究助成金」は1人当たり100千円で令和元年度には合計1,500千円、「同窓会研究助成金」は1人当たり200千円で令和元年度には合計1,000千円の助成を行っている。（関連する中期目標1-3-1-3）
- 就職支援に関しては、本学の教職キャリア開発センターが中心になって行っている。学部学生に対しては、毎年「教職・幼保キャリア形成スケジュール～教員養成試験等対策にかかる重点的取組み～」を作成し、教員採用試験対策講座、教採説明会についての情報を

LiveCampusや公式ツイッターによって、学生に確実に伝えている。さらに、「教師力養成特別演習Ⅰ・Ⅱ」の内容を精査し、学校現場の現状について理解し、教師としての基礎的な知識・技能を定着する内容に改善を図った。大学院生に対しては、「教職セミナー1 dayキャンプ」、教採特別講座「教採水曜バル」を実施し、就職支援を強化した。その結果、学部生の教員就職率は常に全国で上位にあり80%以上を維持し続けている。修士課程の学生についても中期目標の70%を維持している。専門職学位課程では目標の100%には至っていないが、教育行政職に就くなど新たな就職先を開拓している。（関連する中期計画1-3-1-4）

- 教員養成・研修高度化センター内に置かれた社会連携センターが行う研修プログラムには、全国規模のナショナルプログラムと地域に重点を置くリージョナルプログラムの二つがある。ナショナルプログラムは、教育長や教育委員会の幹部職員、学校管理職を対象としており、全国規模で展開するものであり、「教育行政トップリーダーセミナー」、「新時代の学びを支える教育長講座」、「学校管理職用マネジメント研修」がある。

一方で、本学は、教育研究成果を近隣の社会に還元し学校現場の様々な課題の解決に寄与するため、兵庫県内の学校現場や自治体等と平成28年度以降の4年間で新規に22件の連携協定を締結している。第2期中期目標期間以前に連携協定を締結した団体を含め、地域の教育や学校活動サポート等、地域のニーズや課題に応じた事業を積極的に実施している。これが、リージョナルプログラムに該当し、「学校管理職・教育行政職特別研修」、「指導主事の力量形成プログラム」、「4～9年目の教員を対象とした研修プログラム」、「英語BRUSH-UP研修」、「免許法認定公開講座」、「免許法認定講習」、「研修講座」がある。（関連する中期計画4-1-1-1, 4-1-1-2）

- 本学附属図書館の新たな取組として、野外図書館「BLUE CLASS—青空の下で本を読もう—」を平成30年度から開始した。BLUE CLASS（青空教室）とは、国連サミットで採択されたSDGsの「4. 質の高い教育をみんなに」に賛同する本学が、本学独自の学びの場をデザインすることを念頭に置いた取組である。これまでに3回開催（平成30年10月、平成31年4月、令和元年11月）しており、いずれの回も、学生や近隣住民に好評で附属幼稚園の園児なども含めて毎回約200人が参加した。この経験を踏まえ、第4回目のBLUE CLASSを令和2年5月23日（土）に阪神・淡路大震災を経験した神戸市の東遊園地において実施する計画を立て、クラウドファンディングにより運営資金を調達することとした。寄付締切の令和2年1月31日までに125名から目標設定金額100万円を上回る寄付を集めることができた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大のため、開催時期の1年延期を決定し、この間、協力者を募り広報活動に専念することにより、実り豊かなBLUE CLASSになるよう準備することとした。

本学附属図書館には、教材文化資料館が併設されている。教材文化資料館は、開設以来、附属図書館が収集してきた教科書や指導資料、教材などのほか、学校現場から収集した授業実践に関する資料を精査し、その時々々の学校教育のホットな話題をテーマとして取り上げ年2回の展示を実施してきた。令和元年度後期展は、21回目となり、「スクールヘルス—ここから育むみんなの健康—」というテーマで、学校保健が直面する子供たちの健康課題とその対応についての展示を行った。こうした企画展は、教育実践学を標榜する本学の特徴を学外に発信するとともに、地域住民を巻き込みながら、将来教職に携わる学部生、大学院生の教師としての資質向上に繋がっている。（関連する中期計画5-2-1-1）

[戦略性が高く意欲的な目標・計画（◆）]

- 全国最大規模である教職大学院をさらに拡充し、教員養成の高度化を具現化する我が国の中核的な機関として、第3期中期目標期間中に飛躍的な発展を遂げる必要がある。それに関わる先駆的・先導的な取組に挑戦する。（ユニット1）
（関連する中期計画1-3-1-4, 3-1-1-1）

- 本学はミッションの再定義で我が国の「大学院における現職教員の再教育・研修（管理職研修等）の拠点」と位置づけられた。「教師教育のトップランナー」としてこの社会的役割を果たし、教師教育の実践と研究における全国拠点となるため、ナショナルセンターの機能を有するセンターの設置を含め、連合大学院（博士課程）を拡張し、全国に教職大学院を担当できる大学教員を輩出する。また、兵庫県下の大学との連携・協働による教員養成の地域拠点を視野におき、優秀な新人教員を供給する。（ユニット2）
（関連する中期計画 2-1-2-1, 3-1-1-1, 4-1-1-3）

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況（4年目終了時）について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、兵庫教育大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

《判定結果の概要》

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を 上げている	【4】 優れた実績を 上げている	【3】 進捗して いる	【2】 十分に進 捗している とはいえない	【1】 進捗して いない
I 教育に関する目標	【3】 順調に進 んでいる					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる		1	3		
2 教育の実施体制等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			1		
3 学生への支援に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			1		
4 入学者選抜に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			1		
II 研究に関する目標	【3】 順調に進 んでいる					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			2		
2 研究実施体制等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			2		
III 現職教員の高度化に資する学び直し・研修に関する目標	【4】 計画以上の進 捗状況にある					
	なし		1			
IV 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【4】 計画以上の進 捗状況にある					
	なし		1			
V その他の目標	【3】 順調に進 んでいる					
1 グローバル化に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			1		
2 附属図書館に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			1		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、4項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）4項目のうち、1項目が「優れた実績を上げている」、3項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
<p>本学の学士課程では、第2期中期目標期間中に定めた教員養成スタンダードに基づき教員養成教育の継続的な充実・発展に資する先進的な教育課程を編成し、深い教養に根ざし、実践力と人間性に優れた資質の高い新人教員を養成する。</p>	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
		<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 学修成果の可視化</p> <p>履修者の成績分布を確認できる成績分布図、科目群ごとの単位修得状況、教員養成スタンダードの5領域に関連する授業科目の単位修得状況とその成績スコア Teachers' Standard-based Score (TSS) の集計によって、学修成果の可視化に努めている。</p> <p>学修成果の可視化の有効性を検証する取組として、教育改善推進室において学修成果の評価の方針アセスメント・ポリシーに基づく学修成果の評価実施計画（年次スケジュール）を策定している。収集した状況データに基づき、取り組むべき課題及び改善策を教育改善推進室において取りまとめることとなっている。（中期計画 1-1-1-2）</p>	

小項目 1-1-2	判定		判断理由
<p>本学の修士課程では、我が国の学校教育において必要とする教科指導力の在り方を踏まえるとともに、教員養成スタンダード（大学院）に基づいた、より実践的な教育課程を編成し、実践的課題解決に資する研究指導体制を構築することにより、高度専門職業人としての教員を養成する。また、学校教育分野の心理専門職を養成する。</p>	【3】	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
	<p>《特記事項》</p> <p>（特色ある点）</p> <p>○ 大学院における学びの実質化 大学院用の教員養成スタンダードを修士課程の平成 28 年度入学生から適用し、大学院生が自ら立てた在学中の自己課題に基づき、指導教員の指導の下で振り返りを行っている。各年度の後期開始時に大学院生と指導教員が面談を行い、自己課題を見直せるよう改善を図り、振り返りの結果をファイリングし、そこに記された自由記述を用いて、令和元年度には『教員養成スタンダード（大学院）に基づく学生の力量形成の状況』としてまとめており、大学院修了生の学びの成果として可視化している。（中期計画 1-1-2-1）</p> <p>○ アクティブ・ラーニングの推進 修士課程のアクティブ・ラーニングの拡充に向けて、平成 28 年度及び平成 30 年度に教員を対象とした導入状況調査を行っており、8 割以上の授業でアクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業が実施されている。アクティブ・ラーニングの取組を共有するために、平成 28 年度からベストクラスに選定された授業の授業公開を実施し、他の教員が授業改善の参考にできるようにしている。また、学内の FD 推進委員会の下に設置されるアクティブ・ラーニング研究会、学生・教職員 FD 交流会において、アクティブ・ラーニングについての理解と拡充を促進するために、PBL（問題解決型学習）、授業について語り合うワークショップ、反転授業、アクションリサーチをテーマとした研究会を開催している。（中期計画 1-1-2-2）</p>		

小項目 1-1-3	判定		判断理由	
<p>本学の専門職学位課程では、高度の専門性が求められる教職を担うことができる深い学識及び卓越した能力を持ちながら、学校現場において実践力や応用力などを発揮できる資質・力量を備えた指導的教員及び学校現場における新しい学校づくりの中核となり得る新人教員を養成する。</p>	【3】	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>	
		<p>《特記事項》</p>		
		<p>(特色ある点)</p> <p>○ 専門職学位課程の充実 令和元年度に教科にかかわるコースを修士課程から専門職学位課程に移行させており、「学校経営コース」、「学校臨床科学コース」、「言語系教科マネジメントコース」、「社会系教科マネジメントコース」、「理数系教科マネジメントコース」、「小学校教員養成特別コース」、「グローバル化推進教育リーダーコース」、「教育政策リーダーコース」の8コースとしている。この8コースの設置により、教員のライフステージにおけるキャリア発達に即した学校経営リーダー、ミドルリーダー、新人教員の養成をより充実させている。(中期計画 1-1-3-1)</p>		
小項目 1-1-4	判定		判断理由	
<p>本学の博士課程では、今日の教育課題の解決と学校教育の質的改善・改革に貢献することを目的とし、学校教育に関する理論と実践を融合した研究を行い、自立的、協働的に研究・実践できる研究者及び専門職教育者を育成する。</p>	【4】	<p>中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p> <p>○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「連合大学院の拡充に併せた資格審査の実施」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</p>	
		<p>《特記事項》</p>		
		<p>(優れた点)</p> <p>○ 連合大学院の拡充に併せた資格審査の実施 教育実践学コンピテンシーに基づく学生指導を充実させる</p>		

	<p>ため、令和元年度の連合大学院の拡充に併せて、新規2大学において連合学校教育学研究科担当教員に係る資格審査を実施しており、平成30年度は、研究指導及び講義を担当する資格を有する主指導教員資格者19名、研究指導の補助及び講義を担当する資格を有する指導教員資格者10名、令和元年度は主指導教員資格者7名、指導教員資格者5名を認定している。(中期計画1-1-4-1)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 専門職教育者の育成</p> <p>ディプロマ・ポリシーに沿って、第3期中期目標期間中に93名の学位授与(修了)の認定を行っている。そのうち約半数が大学教員として奉職しており、専門職教育者を育成できている。(中期計画1-1-4-1)</p>
--	--

(2) 教育の実施体制等に関する目標(中項目1-2)

<p>【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる</p> <p>(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目1-2-1	判定	判断理由
<p>教員養成の高度化を志向する教育の実施体制として、教員の適切な人的配置を行い、質の高い教育の成果を保証する教育改善システムを構築するとともに教育環境を充実させる。</p>	<p>【3】</p> <p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ ベストクラスを活用した授業改善</p> <p>FD推進委員会において、毎年度、授業担当者及び履修者への聞き取りを基に、学生による授業評価が高い授業をベストクラスとして選定している。選定された授業科目は、教育の質の向上及び改善のために、全学的なFD活動の一環として授業公開を行っている。平成28年度には、ベストクラスに選ばれた授業を分析して「良い授業」に共通する要素を抽出し、「良い授業」とは何かを問う学内シンポジウムを開催し、大学全体で意見交換を行っている。この一連の流れを踏</p>	

	<p>まえ、授業改善の具体的指針を取りまとめている。（中期計画 1-2-1-2）</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症下の教育</p> <p>新型コロナウイルス感染症による影響下において、オンライン授業を実施するにあたり、学内向けに Society5.0 研修会を開催している。研修会ではオンライン授業の進め方や学生から評価の高かった授業等について共有し、オンライン授業の質保証や ICT 活用力の向上に取り組んでいる。また、大学 web サイトに学生向けの「オンライン授業形式での授業実施に向けた準備」ページを設置し、オンライン授業の受講準備についての FAQ や遠隔授業の受講方法の解説動画等を掲載している。</p>
--	---

(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)

<p>【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる</p> <p>(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が 1 項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 1-3-1	判定	判断理由
<p>学生一人ひとりがその可能性を最大限に伸ばし、高い達成感と満足感を得られるよう、学生に対する学修支援、生活支援、ボランティア等の課外活動支援、経済支援、就職支援の強化を行う。</p>	<p>【3】</p> <p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
	<p>《特記事項》</p> <p>(優れた点)</p> <p>○ 教員就職率の好成績</p> <p>体系的な就職支援計画に基づき、教員採用試験対策の早期化、学生の英語力向上等支援の強化を行っている。特に教員採用試験対策として就職ガイダンス、教師力養成特別演習、就職対策強化研修を全学部学生に受講させている。また、教職キャリア開発センターの取組と教員採用試験の合格率の関係について調査を行い、その結果を基に学生への就職指導を改善している。その結果、学部学生の教員採用率は平成 28 年度から平成 30 年度にかけて 80% を超えており、平成 29 年度には教員養成系大学・学部の中で全国 1 位 (86.6%) となっている。（中期計画 1-3-1-4）</p>	

(4) 入学者選抜に関する目標 (中項目 1-4)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 1-4-1	判定		判断理由
アドミッション・ポリシーに基づき、本学が求める学生を多面的・総合的に評価判定する入学者選抜を実施する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

Ⅱ 研究に関する目標（大項目2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、2項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目2-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
兵庫教育大学研究評価指針に基づき、学校教育に関する理論と実践を融合させた教育実践研究を推進し、全国的拠点となるとともに、その成果を広く社会に還元する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 2-1-2	判定		判断理由
連合大学院研究評価指針に基づき、教育実践学研究所の高い水準を維持し、教員養成分野の博士課程のイノベーションモデルとなる。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(優れた点) ○ 共同研究プロジェクトの成果公表 平成30年度で研究期間を終了した連合学校教育学研究所共同研究プロジェクト1件（プロジェクトT「現代的学校教育		

	<p>育問題への効果的な対応が可能な教員・臨床心理士の養成研究（性多様性に関する国際研究と価値観の変容研究）の研究成果報告として、書籍出版4冊、雑誌論文発表6件、学会発表11件（うち国際学会4件）が行われている。また、教員及び臨床心理士への指針として活用されるように、本プロジェクトの成果を『LGBTQ+の児童・生徒・学生への支援』として出版している。（中期計画2-1-2-1）</p>
--	---

（2） 研究実施体制等に関する目標（中項目2-2）

<p>【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる</p> <p>（判断理由）「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。</p>

小項目 2-2-1	判定		判断理由	
<p>本学のミッションに基づいた高度な研究活動を推進するため、充実した研究体制を迅速に整備構築するとともに、着実な点検・検証に取り組むことにより、研究の質を向上させる。</p>	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。	
		《特記事項》		
		該当なし		
小項目 2-2-2	判定		判断理由	
<p>教育実践学研究所の遂行のため、構成大学の協力体制のもと、充実した研究体制を整備構築する。</p>	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。	
		《特記事項》		
		該当なし		

Ⅲ 現職教員の高度化に資する学び直し・研修に関する目標（大項目3）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「現職教員の高度化に資する学び直し・研修に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由
<p>教師教育のトップランナーとして、養成・採用・研修の一体的改善を踏まえた教員養成の高度化に資するため、現職教員の修学・研修ニーズを把握し、教育現場の課題解決のため、学び直しの場と高度で良質な研修の場を提供する。</p>	<p>【4】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p> <p>○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「教職大学院におけるコースの新設」が特色ある点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(特色ある点)</p> <p>○ 教職大学院におけるコースの新設 平成28年度から、教職大学院に日本の新しい地方行政をリードする人材を育成することを目的とした「教育政策リーダーコース」及び国際社会で活躍できる人材を学校現場で育成することを目的とした「グローバル化推進教育リーダーコース」を、現職教員が通学しやすい神戸ハーバーランドキャンパスに新設している。(中期計画3-1-1-1)</p> <p>○ 教育委員会との連携 大学と兵庫県教育委員会及び神戸市教育委員会が教員の養成・採用・研修を「教員育成」として捉え、育成する教員像を明確にするために取組の現状、課題、展望について意見交換を行う教員育成に関する懇談会を毎年度開催している。ここで得られた意見をもとに、教育委員会との連携による研修</p>			

	<p>や、免許状更新講習、免許法認定公開講座等、現職教員や学校関係者を対象とした様々な研修を企画、実施している。実施結果を踏まえ、兵庫県内の市町教育委員会独自の指導主事研修に活用できる『市町教育委員会指導主事研修テキスト』を開発し、兵庫県教育委員会及び兵庫県内の44市町教育委員会に提供している。(中期計画 3-1-1-1)</p> <p>○ 学修成果の調査・分析</p> <p>IR・総合戦略企画室が中心となり、卒業生・修了生等に対する学修成果等に関する調査を実施しており、大学院修了生は、学びの省察と自己課題の設定、子ども理解に優れていることが明らかになっている。IR・総合戦略企画室において分析・集計した結果は、兵庫県教育委員会、兵庫県教育事務所等の関係機関に兵庫教育大学の学びの特徴として紹介している。(中期計画 3-1-1-2)</p>
--	---

IV 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目 4)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 4-1-1	判定		判断理由
本学の教育研究の成果を広く社会に還元するため、社会連携センターの機能を強化し、学校現場等の課題解決に寄与するとともに、関係自治体等と連携して地域の活性化に貢献する。	【4】	中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。 ○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「教員養成の高度化に向けた連携の推進」が特色ある点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 教育委員会との連携研修 学校現場の様々な課題等を解決するため、教育委員会と連携して研修を開催し、英語指導力向上事業、小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習の開発事業、学校管理職リーダーシッププログラム及び教員用マネジメントプログラムの開発事業等において、研修プログラムを開発し、開発したプログラムを兵庫県教育委員会と共催で実施している。また、兵庫教育大学、教育委員会、教育センター、公私立学校、学校長会等関係者を構成員とする「現職教員研修支援プログラム開発プロジェクト研修プログラムチーム会議」を毎年度開催し、現職教員に対する研修についてのニーズ調査や意見交換を行っている。実施した研修・講習の受講者アンケートの分析結果を次年度の研修・講習の企画立案へ反映させている。(中期計画 4-1-1-1)		

	<p>○ 教員養成の高度化に向けた連携の推進</p> <p>6 大学で相互に授業科目を提供し、教職の専門性を深めることを目的に平成 26 年度に開始した教職アドバンスプログラムを発展的に解消し、高等教育に関する様々なニーズに対応しながら、大学間連携を活性化させるため、教職アドバンスプログラムの参加大学を含む兵庫県内の大学、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、鳥取県教育委員会、和歌山県教育委員会、大阪府教育委員会、京都府教育委員会、京都市教育委員会が連携して、教員養成・研修高度化連携協議会を発足させている。その下に、教職大学院教育課程等連携協議部会と学部・教職大学院接続部会を設置し、教員養成の高度化に資する大学の教育課程及び学部と大学院との接続について協議している。（中期計画 4-1-1-3）</p>
--	--

V その他の目標（大項目5）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「その他の目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、2項目が「順調に進んでいる」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1） グローバル化に関する目標（中項目5-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 5-1-1	判定		判断理由
「兵庫教育大学グローバルイノベーション対応戦略」に基づき、国際的な教育研究を推進し、海外諸機関との連携のもと、教育現場で活躍するグローバル化に対応した人材を育成する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

(2) 附属図書館に関する目標 (中項目 5-2)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「附属図書館に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 5-2-1	判定		判断理由
高い専門性と確かな実践力を備えた教員を養成するため、教育実践に資する資料・情報を整備するとともに、学修環境を充実させる。また、広く教育活動に資する事業を展開し、大学の教育研究機能を充実させる。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	≪特記事項≫ 該当なし		

兵庫教育大学

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
中期目標(中項目)		
中期目標(小項目)		
中期計画		
大項目1 教育に関する目標	【3】	順調に進んでいる 3.06 うち現況分析結果加算点 0.00
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】	順調に進んでいる 3.25
小項目1-1-1 本学の学士課程では、第2期中期目標期間中に定めた教員養成スタンダードに基づき教員養成教育の継続的な充実・発展に資する先進的な教育課程を編成し、深い教養に根ざし、実践力と人間性に優れた資質の高い新入教員を養成する。 中期計画1-1-1-1(★) 教員養成スタンダードと授業との関係がより密接になるようカリキュラムマップを見直し、併せて、学修の段階や履修の順序性など教育課程をより体系的に理解させるためのナンバリングを実施する。また、校種間の連携やグローバル化対応等の国や地域の教育課題を見据えた教育課程の改善、再編成を行う。	【3】	進捗している 2.33
中期計画1-1-1-2 学生の主体的な学修を組織的に推進するため、アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法を拡充し、併せて、学生に能動的な学習指導法、及びそれを通して育成すべき資質・能力とは何かを修得させる。また、学修時間の確保、シラバスの充実及び学修成果の可視化に取り組む。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
中期計画1-1-1-3(★) 厳格な成績評価を行うため評価方法を見直すとともに、学生による授業評価の結果の分析を行い、授業改善の具体的指針を明確化する。また、卒業認定については、新入教員としての資質や能力を着実に育成する観点から、ディプロマ・ポリシーに従って、卒業判定基準に基づき厳密に行う。	【2】	中期計画を実施している
小項目1-1-2 本学の修士課程では、我が国の学校教育において必要とする教科指導力の在り方を踏まえるとともに、教員養成スタンダード(大学院)に基づいた、より実践的な教育課程を編成し、実践的課題解決に資する研究指導体制を構築することにより、高度専門職業人としての教員を養成する。また、学校教育分野の心理専門職を養成する。 中期計画1-1-2-1 修士課程の組織改革に沿って、大学院における教員養成スタンダード(大学院)及びカリキュラム・ポリシーの見直しを行うとともに社会的ニーズを踏まえて教育課程を改善する。	【3】	進捗している 2.33
中期計画1-1-2-2 学生の主体的な学修を組織的に推進するため、アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法を拡充し、併せて、学生に能動的な学習指導法、及びそれを通して育成すべき資質・能力とは何かを修得させる。また、教員養成スタンダード(大学院)に示された資質・能力の観点から授業内容・方法を見直し、シラバス改善、学修成果の可視化に取り組む。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-2-3(★) 厳格な成績評価を行うため評価方法を見直すとともに、学生による授業評価の結果と教員養成スタンダード(大学院)の観点から、授業改善の具体的指針を明確化する。また、修了認定については、教育に関連する質の高い人材を育成する観点から、ディプロマ・ポリシーに従って見直し、厳格化した修了判定基準に基づき厳密に行う。	【2】	中期計画を実施している
小項目1-1-3 本学の専門職学位課程では、高度の専門性が求められる教職を担うことができる深い学識及び卓越した能力を持ちながら、学校現場において実践力や応用力などを発揮できる資質・力量を備えた指導的教員及び学校現場における新しい学校づくりの中核となり得る新入教員を養成する。 中期計画1-1-3-1 小学校教員を中心とした新入教員養成、教科指導・生徒指導・グローバル化対応等に優れた力量を持つミドルリーダー養成、学校経営・教育行政に携わるトップリーダー養成の高度化を見据えて、教育課程を改善する。	【3】	進捗している 2.00
中期計画1-1-3-2 授業方法の改善に取り組むために教員養成スタンダード(大学院)と連携させた教育課程の効果について検証を行うとともにシラバスの充実、学修時間の確保、学修成果の可視化、アクティブ・ラーニングの深化により、学生の主体的な学修を組織的に推進する。また、教育実習総合センターとの連携を踏まえ、実習の効果を上げるため、メンター教員と連携し、実習内容を充実させる。	【2】	中期計画を実施している

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
	<p>中期計画1-1-3-3(★)</p> <p>成績評価の基準を明確化し、より緻密な学生の資質向上を確認する成績評価やディプロマ・ポリシーに沿って厳密な修了認定を行う方法を強化する。</p>	[2]	中期計画を実施している	
	<p>小項目1-1-4</p> <p>本学の博士課程では、今日の教育課題の解決と学校教育の質的改善・改革に貢献することを目的とし、学校教育に関する理論と実践を融合した研究を行い、自立的、協働的に研究・実践できる研究者及び専門職教育者を育成する。</p>	[4]	優れた実績を上げている	3.00
	<p>中期計画1-1-4-1(★)</p> <p>教職大学院等において教育を担当できる研究者を育成するために、教育実践学コンピテンシーに基づき、必要な能力・資質を身に付けられるよう教育課程及び教育方法を改善する。また、ディプロマ・ポリシーに沿った明確な基準のもとに、学位授与(修了)の認定を行う。</p>	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
<p>中項目1-2</p> <p>教育の実施体制等に関する目標</p>		[3]	順調に進んでいる	3.00
	<p>小項目1-2-1</p> <p>教員養成の高度化を志向する教育の実施体制として、教員の適切な人的配置を行い、質の高い教育の成果を保証する教育改善システムを構築するとともに教育環境を充実させる。</p>	[3]	進捗している	2.33
	<p>中期計画1-2-1-1</p> <p>社会のニーズや本学のミッションの実現に対応できる教員の配置について明確な方針を策定し、厳正な評価に基づいて女性、若手、外国籍の教員を積極的に採用する。若手教員の採用については、40歳未満の若手教員の活躍の場を全学的に拡大し、若手教員の雇用に関する計画に基づき、退職金に係る運営費交付金の積算対象となる教員における若手教員の比率を第3期中期目標期間末時点で14%以上となるよう促進する。また、教育効果等の観点から、必要に応じて教育研究組織の役割分担(学部・大学院等)の比重を見直す。</p>	[2]	中期計画を実施している	
	<p>中期計画1-2-1-2</p> <p>教育活動に対する評価結果を教育の質の向上や改善に結びつけるため、ファカルティ・ディベロップメント推進委員会を中心とした組織的取組により、ベストクラスの選定、教員養成スタンダードのカリキュラムマップの改善等、全学的なファカルティ・ディベロップメント活動を推進する。</p>	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
	<p>中期計画1-2-1-3</p> <p>学生・教職員のICTに関するリテラシーを向上させ、遠隔講義システム等、情報ネットワークの教育的活用を図るための教育環境を充実させる。</p>	[2]	中期計画を実施している	
<p>中項目1-3</p> <p>学生への支援に関する目標</p>		[3]	順調に進んでいる	3.00
	<p>小項目1-3-1</p> <p>学生一人ひとりがその可能性を最大限に伸ばし、高い達成感と満足感を得られるよう、学生に対する学修支援、生活支援、ボランティア等の課外活動支援、経済支援、就職支援の強化を行う。</p>	[3]	進捗している	2.00
	<p>中期計画1-3-1-1</p> <p>全学的な学生生活実態調査方法を改善し、第3期中期目標期間中に3回以上行うとともに、学長が学生から直接意見を聞く場を年複数回設定する。また、提案箱やクラスミーティングなど様々な場を通じて学生のニーズを把握し、学生の生活環境の改善を行う。</p>	[2]	中期計画を実施している	
	<p>中期計画1-3-1-2</p> <p>特別な配慮が必要な学生等への支援のための関係部署の連携体制の整備、防犯体制の強化など安全・安心に配慮した学生寄宿舎等の学内環境の整備、学生による不登校児童生徒支援や学校現場での学習支援等のボランティア活動など、学修・生活・課外活動支援を充実させる。</p>	[2]	中期計画を実施している	
	<p>中期計画1-3-1-3(★)</p> <p>経済的支援が必要な現職教員や教員志望学生等に対し、学生のニーズ、費用対効果、及び財政状況を考慮した支援体制を整備することにより、独自の奨学金や研究費等の支援を受ける学生数を第2期中期目標期間末比2割増加させる。</p>	[2]	中期計画を実施している	
	<p>中期計画1-3-1-4(★)(◆)</p> <p>教職キャリア開発センターの就職・キャリア支援の取組を推進し、高い教員・保育士就職率を維持する。学部については、80%(進学者を除く)を確保する。修士課程については、臨床心理学コースを除き、教員・保育士就職率70%(進学者を除く)を確保する。専門職学位課程については、教員就職率100%(進学者を除く)を確保する。</p>	[2]	中期計画を実施している	

兵庫教育大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中項目1-4	入学者選抜に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-4-1	アドミッション・ポリシーに基づき、本学が求める学生を多面的・総合的に評価判定する入学者選抜を実施する。	【3】	進捗している	2.25
中期計画1-4-1-1	入試制度の改革に併せて、次世代の教育を担う教員となるにふさわしい資質や能力などを多面的に評価するため、面接を重視する等の入学者選抜方法の改善を行う。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画1-4-1-2	大学院の組織改革に対応した教育研究等の広報活動を充実させるとともに、自らの資質能力の向上を志向する現職教員や高い専門性と実践力を持った初等・中等教育教員になることを強く志向する者及び学校教育分野の心理専門職になり得る人材に対応するため、多様な修学背景や専攻・コース等の特性に応じた入学者選抜を実施する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-4-1-3	教職大学院の整備拡充に対応した教育研究等の広報活動を充実させるとともに、学校現場における実践力・応用力を備えた指導的役割を果たすスクールリーダーや新しい学校づくりの有力な一員となる新入教員になり得る人材に対応するため、多様な修学背景や専攻・コース等の特性に応じた入学者選抜を実施する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-4-1-4	博士課程の人材養成の目的を広く周知させるとともに、実践に根ざした学校教育学研究の一層の推進を図る見地から、現職教員をはじめ教育実践学の研究を志す者の受入れを継続的に行う。	【2】	中期計画を実施している	
大項目2	研究に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00 うち現況分析結果加算点 0.00
中項目2-1	研究水準及び研究の成果等に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目2-1-1	兵庫教育大学研究評価指針に基づき、学校教育に関する理論と実践を融合させた教育実践研究を推進し、全国的拠点となるとともに、その成果を広く社会に還元する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画2-1-1-1	教育現場に根ざし、学校現場の課題改善・解決に結びつく理論と実践を融合させた教育実践研究を実施し、その成果を客観的なエビデンスとともに示す。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-1-1-2	図書館が管理するリポジトリ等を利用して、研究成果を組織的に把握・集約するシステムを構築し、研究成果をWebページ上で公開する等、効果的に社会に還元する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目2-1-2	連合大学院研究評価指針に基づき、教育実践学研究の高い水準を維持し、教員養成分野の博士課程のイノベーションモデルとなる。	【3】	進捗している	2.00
中期計画2-1-2-1(★)(◆)	連合大学院における教育実践学研究として、国内外に広がるプロジェクト研究及び個人レベルの学術研究を推進し、その成果を関連学会等で公表し、教育現場に還元する。	【2】	中期計画を実施している	

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中項目2-2 研究実施体制等に関する目標		【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目2-2-1 本学のミッションに基づいた高度な研究活動を推進するため、充実した研究体制を迅速に整備構築するとともに、着実な点検・検証に取り組むことにより、研究の質を向上させる。		【3】	進捗している	2.00
中期計画2-2-1-1 本学が行う先導的研究や海外を含めた教育諸機関との共同研究を推進するとともに、成果に応じたインセンティブの導入や研究活動の外部評価体制を構築することにより、研究の質を向上させる。また、先導研究推進機構を教員養成・研修高度化センターへ統合・拡充し、Society5.0時代に対応した新しい教育の研究活動を推進するため、リサーチ・アドミニストレーターを全学的に導入する。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-2-1-2 平成27年度に策定した「研究活動の不正行為への対応等に関する規程」を教員の研究活動と学生への研究指導に対して徹底させるため、研究倫理に関する委員会等の組織を整備し、運用する。		【2】	中期計画を実施している	
小項目2-2-2 教育実践学研究所の遂行のため、構成大学の協力体制のもと、充実した研究体制を整備構築する。		【3】	進捗している	2.00
中期計画2-2-2-1 教育実践学研究所遂行のため、リサーチ・アシスタントを活用し、構成大学、教育現場・教育委員会、諸外国の研究機関等と連携した共同研究を推進し、第3期中期目標期間中に6件以上のプロジェクトを実施する。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-2-2-2 博士課程において研究倫理委員会を設置し、現行の博士課程研究倫理ガイドラインを基に、各構成大学の研究倫理規程を踏まえた共通の研究倫理規程を平成28年度中に整備し、研究倫理に関する教育を充実させ、研究・研究指導を行う。		【2】	中期計画を実施している	
大項目3 現職教員の高度化に資する学び直し・研修に関する目標		【4】	計画以上の進捗状況にある	4.00
		なし	—	—
小項目3-1-1 教師教育のトップランナーとして、養成・採用・研修の一体的改善を踏まえた教員養成の高度化に資するため、現職教員の修学・研修ニーズを把握し、教育現場の課題解決のため、学び直しの場と高度で良質な研修の場を提供する。		【4】	優れた実績を上げている	2.50
中期計画3-1-1-1(★)(◆) 学校現場の職務実態を考慮し、現職教員の修学ニーズに応えるため、神戸ハーバーランドキャンパスを拠点として、教職大学院新コースの設置、教育委員会との連携による研修の実施、及び次世代の教育を実践できる人材を養成する教育プログラム等の創設を行う。		【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画3-1-1-2 教育委員会と連携して、本学の卒業生・修了生を中心とした現職教員に学びのニーズ等に関する調査を実施するとともに、本学の卒業生・修了生の教育現場での勤務状況等の評価について勤務校の管理職等に調査を行う。これらの結果を教育の質保証と教員養成の高度化に反映させる。		【2】	中期計画を実施している	

兵庫教育大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
大項目4 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【4】	計画以上の進捗状況にある	4.00
	なし	—	—
小項目4-1-1 本学の教育研究の成果を広く社会に還元するため、社会連携センターの機能を強化し、学校現場等の課題解決に寄与するとともに、関係自治体等と連携して地域の活性化に貢献する。	【4】	優れた実績を上げている	2.50
中期計画4-1-1-1(★) 学校現場の様々な課題等を解決するため、現職教員の学び直し・研修の拠点としての本学の特性を最大限に生かしながら、教育委員会などの教育機関と連携した多様で多彩な現職教員研修や教員免許状更新講習等を実施する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画4-1-1-2(★) 兵庫県内の学校現場や自治体等と連携協働し、地域の教育や学校活動サポート等、ニーズや課題に応じた事業を積極的に実施する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画4-1-1-3(◆) 高等教育に関する様々なニーズに対応しながら、兵庫県内の大学等を中心とした大学間の交流を活性化し、学修・研究活動等の分野において、教職アドバンスプログラム等の相互に連携協働する事業を開発・推進する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画4-1-1-4 本学の教育研究の進展及び教育現場の活性化のため、学部同窓会や全国組織である大学院同窓会と連携した広域のネットワークを構築し、卒業生・修了生対象の研究大会の開催、修了生との共同研究の実施など、学校現場の諸課題の解決に役立つ教育実践活動の支援を行う。	【2】	中期計画を実施している	
大項目5 その他の目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
中項目5-1 グローバル化に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目5-1-1 「兵庫教育大学グローバルイノベーション対応戦略」に基づき、国際的な教育研究を推進し、海外諸機関との連携のもと、教育現場で活躍するグローバル化に対応した人材を育成する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画5-1-1-1(*) 優秀な留学生を増加させるため、生活支援と日本語教育の充実を含めた留学生受入れ方策を充実させ、第3期中期目標期間中に計200人以上の留学生を受入れる。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画5-1-1-2 グローバル化に相応しい教育研究の連携や人的交流を推進するため、海外の大学・研究機関等との新たな交流協定の締結を行い、協定大学の数を第2期中期目標期間末比2割増加させる。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画5-1-1-3(*) 留学や海外研修を含めた日本人学生の海外派遣を促進するための支援体制の拡充を図り、第3期中期目標期間中に計150人以上を海外へ派遣する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画5-1-1-4 近隣自治体が運営する国際交流団体等と連携・協力し、学生が、地域におけるグローバルイノベーションに関わる学習や体験を推進できる能力を身につけるための体制を構築する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画5-1-1-5 グローバル化と学生の英語力の強化を推進するため、学生が海外で行う研修活動等を単位化対象とする授業科目を創設する。	【2】	中期計画を実施している	

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
中項目5-2 附属図書館に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目5-2-1 高い専門性と確かな実践力を備えた教員を養成するため、教育実践に資する資料・情報を整備するとともに、学修環境を充実させる。また、広く教育活動に資する事業を展開し、大学の教育研究機能を充実させる。	【3】	進捗している	2.00
中期計画5-2-1-1(★) 学生のニーズを踏まえ、教育実践に資する資料を整備するとともに、ラーニングコモンズを中心とした学修支援機能の向上により、利用者数を第2期中期目標期間の総利用者数の10%を増加させる。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画5-2-1-2 本学の教員と連携し、授業やセミナー等広く教育活動に資する事業を展開するとともに、教員の研究成果をリポジトリ等で一元的に把握し発信することにより、大学の教育研究機能を支援する。	【2】	中期計画を実施している	

※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。
 (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
 (◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
 (*):新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析:「教育」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「教育に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)、} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析:「研究」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「研究に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)、} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。
 なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。